

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

- 1 所在地 福井県福井市城戸ノ内町
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)六月～十二月
- 3 発掘機関 福井県立朝倉氏遺跡資料館
- 4 調査担当者 藤原武二
- 5 遺跡の種類 城館・都市跡
- 6 遺跡の年代 一五世紀後半～一六世紀後半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(永平寺・大野)

本遺跡は福井市の東南約一〇kmの谷あいであり、戦国大名朝倉氏の五代にわたる城郭都市である。足羽川支流の一乗谷川が貫流する谷の一番狭くなる地点二カ所に土塁を設けて木戸としている。この二カ所の土塁の間を現在も城戸ノ内町といい、その範囲は南北一・八km、東西〇・五kmである。朝倉義景の館をはじめ、家臣団の屋敷、寺院、商工業者の町屋等が文字どおり軒

を接して城戸ノ内に立ち並んでいたのである。

今回、第四六次調査として発掘調査を実施したのは、城戸ノ内のほぼ中央に位置する字奥真野の地約三〇〇〇㎡である。ここは、近くに「サイゴ寺」という通称が残っていたり、近世に描かれた絵図に寺院の名がいくつか書きこまれているなど、かつては寺院がたぐさんあったところであるといいつたえられている。事実、第一七・四〇・四四次の調査によっても、この附近一帯に寺院があったことが明らかにされている。調査の結果、道路二、石組溝一八、石列一二、礎石建物一五、掘立柱建物一、庭園一、井戸五、石積施設九、甕埋設遺構一、蔵骨器一九を埋設した墓地一カ所等を検出した。

遺構は寺院と町屋に大別でき、A・B地区が町屋、D地区が寺院、C地区が寺院と墓地である。出土した墨書のある遺物は、付札、卒塔婆、こけら経、笹塔婆である。付札は町屋群の中を流れる石組溝SD二六九九とSD二七〇三から、卒塔婆はSD二七〇三からも出土したが、大部分は石積施設SF二七三六から出土した。墓地からはこけら経と笹塔婆が出土した。本格的な墓地の発掘は一乗谷では初めてのことであり、また大量のこけら経・笹塔婆の出土も前例のないことで、戦国時代城下町における寺院墓地のあり方を考える上での貴重な資料が得られた。

8 木簡の积文・内容

(9)	「天文十八年正月十三× (520)×50×7 061
(8)	「南無妙法蓮華經為道清聖靈孟蘭盆供養仏果」 73×58×1 061
(7)	「南無妙法蓮華經為妙□禪尼 永禄元年七月九日 (705)×57×1 061
(6)	・「南無妙法蓮華經為淨清初七日 (410)×74×1 061 ・「是人於仏道決定無有疑
(5)	「南無妙法蓮華經為妙蓮 (357)×38×1 061
(4)	×華経右志者为妙典靈位孟蘭盆× (350)×65×1 061
(3)	・「諸□從□常自□滅相仏子行道□来世得□× (787)×56×1 061 〔法〕〔本来〕〔寂〕〔已〕〔作仏〕 菩提□報□日
(2)	「[]のこゑ」 146×29×2 051
(1)	・「一石の内五斗上[]候カ」 104×20×1 032 ・「〱十二月十三日」
(10)	「南無浄行菩薩 □ (590)×52×7 061
(11)	「南無上行菩薩 (530)×50×7 061
(12)	「南無多宝如来 (520)×52×7 061
(13)	「南無妙法蓮華經悲母□境靈位 (幻カ) (500)×52×7 061
(14)	「[]× (520)×52×7 061
(15)	「南無安立行菩薩 (三カ) (610)×53×7 061
(16)	「南無々辺行菩薩 (520)×50×7 061
(17)	「[] X (520)×53×7 061
(18)	「春童一周忌也 〔子脱カ〕 061
(19)	「慶春童子□ 061
(20)	「経 為慶春」 061
(21)	「妙法蓮華經為慶春童子× 061
(1)	はSD二六九九、(2)はSD二七〇三から出土した。(5)から(7)ま

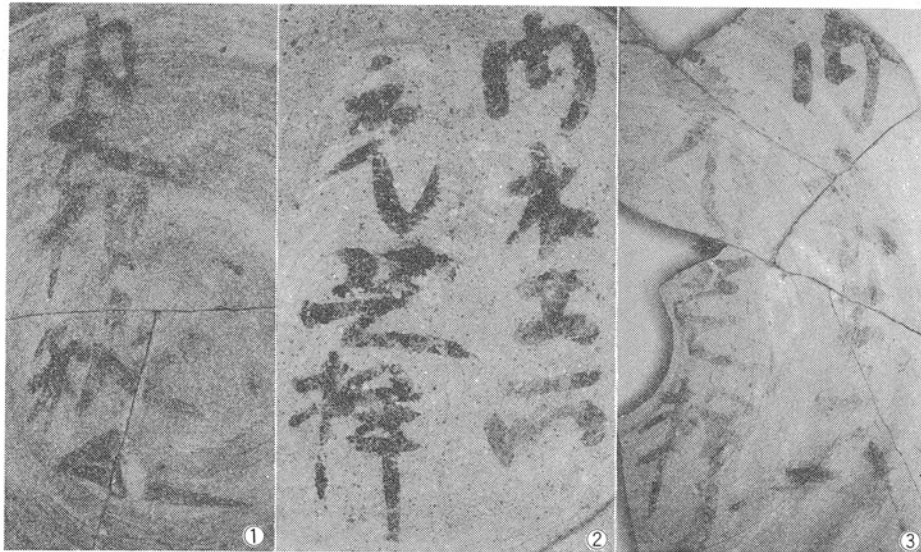
では石積施設SF二七三六から出土したものである。(9)から(17)までは九本の卒塔婆の上中下三カ所に横木をあてて釘で打ち付けてある。(18)以下は笹塔婆の断片で、法華題目の下に被供養者の名を記したものである。

この他に、釈文は掲げなかったが、こけら経と笹塔婆が二万数千点出土した。こけら経は、四千枚程を一束にしたもの二本を一組として、四本が墓地内に柱根のような状態で埋納してあった。書写された経典は法華経で、経文を書いた右下に「一ノ十七」「一ノ廿一」等と小さく記すものもある。おそらく、経文を写す際の区分を示すものであろう。

9 関係文献

福井県立朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗朝倉氏遺跡XV 昭和58年度発掘調査整備事業概報』(一九八四年)

(清田善樹)



平城宮跡第157次調査出土墨書土器 ①内大炊秋人 ②内木工所充足梓 ③内木工所充足梓